

ふるさと応援団員からの便り

川に感謝、人に感謝

榎田 透

兵庫県神戸市在住
昭和36年生まれ

「今年も四万十川に行くの？」と子供が尋ねてくる頃には、私は既に宿泊先の手配を終え、先の四万十旅行に思いを馳せ、子供以上に私が四万十への旅行を楽しみにしています。

夏季に家族で四万十川を訪れるようになってから十四、五年になりませんが、子供らを写した写真には数多く、「日本最後の清流 四万十川」が写っています。

四万十方面への旅行は、「子供達の記憶に残る旅行をしよう」というのが発端でした。

私も妻も神戸生まれの神戸育ちで、子供の頃に海岸や山の小川で遊んだのですが、子供の就学時期には海岸は埋め立てられ、砂防ダムを流れる小川は手入れされることもなく荒れてしまっており、自然に触れあう場所は無くなっていました。

「広く、きれいな川で子供を思い切り遊ばせてやりたい」という思いが、四万十川への旅行につながりました。

四万十川では、子供は遊泳・魚取りを楽しみ、大人は自然の中で遠くに聞こえる蝉の声を聞き、日常業務からの解放感を満喫させていただいて

います。熱心に川遊びする我が子の姿は幼い頃の自分と重なり、自分を育ててくれた両親に感謝する次第で、有意義な時間を与えてくれる四万十川に感謝をしています。

かつて、単身のバイクツーリングで訪れた際、地図を広げて行き先を探す私に地理教示を下さっただけでなく、道中で食べなさいと果物を包んで下さるなど、土地にお住まいの方の情に触れることがあって、四万十という土地柄が一層、好きになりました。

毎年お邪魔する四万十市ですが、訪問を重ねる毎に川遊びの楽しみ方が増えましたし、名所旧跡、食材、特産品など、新たな発見もありました。今年の旅行では、「めじか」なるものを知ることができました。この料理、いつか機会を得て食してみたいと思っています。

日本中に川はいくつもありますが、四万十川ほど多くの人に愛され、恵み多い川は他にありません。川を美しく守り、私たち旅行者を受け入れて下さる四万十市民の皆様、紙上をお借りして感謝と御礼を申し上げます。

